



2026 Keiro 助成金プログラム よくある質問 (FAQ)

1. なぜ Keiro は助成金プログラムを実施しているのでしょうか。

Keiro の「助成金プログラム」は、私たちのコミュニティ内で高齢者向けサービスへのアクセスを向上させることを推進するプログラムの一つです。すでに多くの団体が、ロサンゼルス、オレンジ、ベンチュラカウンティで、日系アメリカ人と日本人高齢者とその介護者に素晴らしいプロジェクトとサービスを提供しています。

2026 年のプログラムでは、日系人及び日本人コミュニティの高齢者とその介護者の方の生活の質の向上に注力するプログラムを支援し続けます。Keiro は、日系文化に配慮した、人中心のアプローチで高齢者と介護者の生活の質を向上するには「健康・ウェルネス」、「生きがい」、「つながり」、「安心」と「自主性・自律性」が必要だと理解しています。

当「助成金プログラム」は、様々な団体が既存のサービス強化、新規の革新的なサービスを作り上げ、コミュニティでのアクセスを拡大できることができるよう、Keiro のリソースで支援することを可能にします。

2. 2026 年の助成金プログラムでの変更はありますか？

はい、主な変更点は以下のとおりです。

- 2レベルの助成金枠: \$10,000 以下、および \$10,001 ~ \$20,000 の2レベルの助成金制度となります。詳細は 2026 年助成金プログラムガイドラインをご覧ください。
- 申請対象外となる提出内容: 以下は 2026 年助成金プログラムの申請対象外です。
 - 501(c)(3)以外の 501(c)のステータスを持つ非営利団体(例: 501(c)(4)、501(c)(6)など)
 - 年間運営予算が、500 万ドル以上の団体
- 助成期間: 助成期間は最長 12 か月です。(2026 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日)。
- 資本プロジェクト: 2026 年サイクルでは資本プロジェクトは含まれません。資本プロジェクトとは施設・建物の改装費; 車の購入、リースやメンテナンスにかかる費用; 大型設備機器(暖房機器、冷蔵庫、暖房、換気、および空調システム等)の購入、リースやメンテナンスにかかる費用のことです。

3. 2026 年助成金プログラムでなぜこのような変更が行われるのでしょうか？

助成金プログラムが第 10 回の資金提供サイクルを迎えるにあたり、スタッフおよびリーダーシップチームは、これまでの成果と影響を引き続き評価しています。また、助成金受領団体や申請者からのフィードバックに加え、助成制度における最善の効果を考慮し、プログラムのさらなる発展を目指しています。これらの変更は、優れた活動を行うコミュニティ団体を支援すると同時に、Keiro の優先事項やビジョンとの整合性を高めることを目的としています。

申請書類について

4. 助成金の申請書の締め切りはいつでしょうか。

助成金の提出締め切りは 2025 年 8 月 1 日 (金) 西部時間午後 5 時です。7 月 11 日 (金) までにご提出いただいた団体には、拘束力を持たないレビューとフィードバック (Non-binding feedback) を提供させていただきます。

5. 助成金のガイドラインはありますか？

はい、ガイドラインはございます。詳細な内容はこちらからご覧ください: www.keiro.org/jp-grants。

6. Keiro のスタッフの方に相談して申請書類を書いてもらうことは可能でしょうか？

Keiro スタッフは、申請要件に関する質問があれば、お答えいたしますが、申請書類の質問の詳細な答えを教えたり、プロジェクト・プログラム内容に関するアドバイスや、申請書を書くお手伝いはしておりません。当プログラムに関する情報、ガイドライン、申請方法やその他質疑応答をさせていただくオンライン説明会を開催します。ご参加ご検討ください。オンラインワークショップの開催日程と申し込み手続きはこちら: www.keiro.org/jp-grants。

7. Keiro のスタッフの方から申請内容に関するフィードバックを受けることはできますでしょうか？

7 月 11 日 (金) までに申請書をご提出いただいた団体には、拘束力を持たないレビューとフィードバック (Non-binding feedback) を提供させていただきます。Keiro スタッフより、申請書の答え方のアプローチ、方向性などをお伝えすることはできますが、法的拘束力はなく、必ずしも助成金審査委員会の見解を反映しているとは限りません。

申請資格について

8. 個人に助成金を提供していますか？

いいえ、個人へは助成金を提供しておりません。

9. ロサンゼルスカウンティ以外の団体も助成金の対象ですか？

はい、Keiro はロサンゼルス、オレンジ、ベンチュラカウンティにある団体へ助成金を提供することで、高齢者とその介護者の暮らしを向上させるべく尽力しています。助成金受領団体の所在地については、団体の本拠地がロサンゼルス、オレンジ、ベンチュラカウンティにいらなくても構いません。ただし、そのプロジェクト、プログラム、またはサービスを受ける高齢者とその介護者はそれらのカウンティ内に居住している必要があります。

10. Keiro は営利団体に助成金を提供していますか？

いいえ、Keiro では営利団体への助成金は提供はしておりません。

11. 新しい団体で 501(c)(3) ステータスを持っていませんが、申請してもよろしいでしょうか。
はい、しかしながら、申請書を提出するまでに、既存の 501(c)(3)ステータスの団体をフィスカル・スポンサーとして確保していただく必要があります。申請書提出時には、スポンサーを証明する承認書の提出が求められます。
12. Keiro では「私たちのコミュニティ」をどのように定義していますか？
「私たちのコミュニティ」とは、ロサンゼルス、オレンジ、ベンチュラカウンティの日系アメリカ人および日本人コミュニティのことで、私たちの理念や文化に賛同する方も含まれます。
13. 過去に Keiro と関係があった団体は優遇されますか？
すべての助成金提供の判断は、「助成金プログラム」のガイドラインおよび独立した助成金審査委員会の推薦に基づき、そのプロジェクトがもたらすメリットとインパクトによって決定されます。ただし、レベル2(\$10,001~\$20,000)の助成金に関しては、過去5年以内に助成を受けたことがあり、既存または継続中のプログラムやサービス、コアな運営、あるいは能力構築を目的とした提案を行う再申請団体が優先的に検討されます。

助成金の種類

14. 一般運営費にも助成金を使うことはできますか？
はい、Keiro は一般運営費も支援します。これはコアな運営、というプログラム促進、そして能力構築と一緒に並ぶ一つの助成金支援の種類に含まれています。スタッフ配置に対する支援も、能力構築の中に含まれます。
15. Keiro からローンをもろうことはできますか？
いいえ、ローンや理念を元に実施される投資などは、助成金の対象にはなりません。
16. 設備投資のプロジェクトとプログラム促進のどちらが好ましいですか？
設備プロジェクトは 2026 年の助成金には含まれません。助成金はプログラム促進、能力構築(スタッフ配置を含む)、とコアな運営に限られます。質問事項、# 2、に記載されている「設備投資」の種類についてはそちらをご参照ください。
17. Keiro では複数年にわたる助成金の支援を行っていますか？
いいえ、助成金の支援期間は 12 か月と決まっております。

助成金の支援レベルについて

18. 助成金プログラムの申請額の最少額はございますか？
いいえ、ございません。2026 年の助成金サイクルの最大額は\$20,000 になっております。2 レベルの助成金の詳細に関しましては、2026 助成金プログラムガイドラインをご覧ください。

19. 申請からの審査プロセスで団体で異なることはあるのでしょうか。

はい、優先事項に関しましては以下のとおりです。

- 年間運営予算:
 - 助成金プログラムでは年間運営予算 100 万ドル以下の団体・グループが優先されます。なお、フィスカル・スポンサーの運営予算は審査の優先基準にはなりません。
 - 年間運営予算が 100 万ドルから 500 万ドルの団体からの申請も受け付けますが、優先順位は低くなります。
- 継続的なプログラム: プログラムの開発支援を申請する場合、定期的または周期的に実施される継続的なプログラム(一回限りのイベントではなく)に対して、優先的に助成が検討されます。
- レベル2の助成(\$10,001~\$20,000): 過去5年以内に助成を受けたことがあり、既存または継続中のプログラムやサービス、コアな運営、あるいは能力構築を目的とする提案を提出する再申請団体に対して、優先的に検討が行われます。

申請プロセス、審査方法について

20. 申請書を受け取ったかの確認はどのようにして行われますか？

電子メールでの返信という形でご連絡させていただきます。

21. Letter of Inquiry (LOI)を提出する必要はありますか？

いいえ、Letter of Inquiry を提出する必要はございません。

22. 他の団体などの助成金プログラムへ申請するのは、結果がわかるまで待つべきでしょうか。

いいえ、待たずにぜひ様々な助成金へ申請し、複数の財源を探すことを推奨します。

23. 現地調査・視察をしますか？

今年は申請書をレビューする時に、追加で電子メール、電話、テレビ会議、もしくは対面で追加の質疑応答等を実施します。申請書をレビューしているスタッフにより行わせていただきます。

24. ファックスもしくは Email での申請書類の提出は可能でしょうか。

はい、電子メールでの提出は可能です。記録目的で、すべての申請書類を電子版でいただきたいと考えております。添付ファイルが大きいため一つのメールで送付が難しい場合は、複数のメールに分けて送付いただいても構いません。ファックスされる場合は 213.873.5799 までファックスいただき、その旨 grants@keiro.org までメールでご連絡いただければと思います。

25. 同じ年度内に複数のプロジェクトを計画している場合、追加の提案書を提出できますか？

多数のコミュニティセンター、教会、寺院が高齢者向けまたは介護者のプログラムを複数実施していることかと思われます。1つの団体から複数の申請書を提出していただくことは可能です。しかしながら、複数の申請書を提出いただいた場合でも、1つの団体またはグループに対する助成金の最大授与金額は 20,000 ドルとなっております。

また、より大規模な団体の傘下にあつて財政支援を受けている団体からの申請書も受理します。もし、フィスカル・スポンサーになっている団体も助成金を申請した場合は、フィスカル・スポンサーになる側の団体と支援を受ける側の団体は、別の組織とみなし、別で審査されます。

26. 申請が受理された・されないはいつ、どのようにしてわかりますか？

すべての申請団体は、助成金審査委員会が検討し、最終的な審査結果を Keiro サービス理事会へ提示いたします。その結果が最終的に皆様に電子メールで通知されるのは 2025 年の 11 月を予定しております。

27. 申請書以外にどのような書類を提出する必要がありますか？

詳細はウェブサイトの助成金ガイドラインをご参照ください。 www.keiro.org/jp-grants。

28. 最近申請書を提出しましたが、助成金をもらえませんでした。同じ内容で再申請してもよいでしょうか？

はい、2026 年の申請資格を満たしていれば、再度の申請は可能です。以前受領しなかった場合でも一年ごとの助成金ですので申請は可能です。Keiro の電子ニュースレターより情報発信しておりますので興味がある方はぜひ受け取るようにウェブサイトからご登録ください。

申請書の提出内容および不採択に関するフィードバック

29. 申請書のフィードバック、受領できなかった場合申請書類を早めに提出すれば、スタッフからのフィードバックはもらえるのでしょうか？

はい、2025 年 7 月 11 日までに早期提出いただき、レビューをご希望されるリクエストをいただいた書類はスタッフが確認し、フィードバックを提供させていただきます。しかしながら、スタッフによる予備的なレビューは拘束力を持たないフィードバック (Non-binding feedback) です。必ずしも助成金審査委員会の見解を反映しているとは限りません。

2025 年 7 月 11 日以降の申し込み団体にはスタッフからのフィードバックはご提供できません。

30. 私たちの申請書が却下されました。理由を教えてくださいませんか？

助成金授与の対象にならなかった申請書については、助成金審査委員会のフィードバックをお知らせします。ヘザー・ハラダ (Heather Harada、grants@keiro.org) までご連絡をいただき、ミーティングを設けさせていただきます。

報告について

31. 助成金を受領した場合、最終報告書はいつまでに提出するべきでしょうか。

最終報告書は 12 か月の助成金のプログラム期間の最後に提出となります。期間は 2026 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日です。中間報告書もごさいます。当初のプロジェクトのタイムラインから変更が必要な場合はヘザー・ハラダ (Heather Harada) grants@keiro.org までご連絡ください。

32. 最終報告書を受け取っていただけたと分かる方法がありますか？

受け取った報告書は電子メールの返信という形で受理したご連絡させていただきます。

33. なぜ中間報告書と最終報告書の形式が、団体やプログラム/プロジェクトによって異なるのですか？

これまでの助成サイクルでは、助成対象となったプログラムやプロジェクトに関わらず、すべての助成団体に対して同一の報告書形式の提出を求めてきました。しかし、助成金運営における最善の効果と、過去の助成団体からのフィードバックを踏まえ、2026年度の助成報告書形式は、各プログラムやプロジェクトの内容に応じて調整されます。これにより、助成団体が自身の取り組みによる成果や影響をより適切に共有できるようになるとともに、報告書作成にかかる時間的負担にも配慮することが可能になります。